

# 神のダルシャン

## モーガン・フーパーによる再話

神は時々、最も予想外の方法で探究者の前に現れます。たとえ真理を知ることへのひたむきな切望と確固たる決意があったとしても、神は私たちの思いもよらない方法で現れるのです。これは、バラクリシュナ・マスカルという男の物語です。

バラクリシュナは生涯を通じて、ダッタートレーヤー神の熱心な信奉者でした。ダッタートレーヤー神は、三つの頭を持つ姿の、ブラフマー、ヴィシュヌ、シヴァの三神一体の顕現です。バラクリシュナは心からダッタ神のダルシャンを欲していたので、マハーラーシュトラ州南部の自宅から、彼の敬愛する神にささげられた巡礼地であるカルナータカ州ガーナガープーラに旅をしました。

ガーナガープーラでは、バラクリシュナは『シュリー・グル・チャリトラ』を108回朗唱することを誓いました。ダッタートレーヤーの栄光を称賛するこの教典は8000節の長さであり、教典を1回朗唱し終えるのに1週間かかります。これはバラクリシュナにとっては、大した問題ではありませんでした。彼は、ダッタ神のダルシャンを受け取ることを考えていました。彼が教典を100回朗唱し終えた頃には、2年が過ぎていました。

残る朗唱は8回のみとなり、バラクリシュナは誓いをしっかり守っていましたが、朗唱のたびに、だんだんと落胆していきました。『シュリー・グル・チャリトラ』の108回目の朗唱を終えた時、彼はしばらくの間、待ち、期待しながら、静かに座っていましたが、それでも輝かしい神は影も形も見えませんでした。

「ああ、どこで間違えたのだろうか、これからどうすればいいのだろうか？」と、彼は思いました。その直後のある夜、バラクリシュナは夢を見ました。その中で、ダッタトレーヤー神自身から、「私のダルシャンが欲しいなら、ガネーシュプリーに行きなさい」という命令を受けたのです。

バラクリシュナは当惑して目が覚めました。「ガネーシュプリー？ ガネーシュプリーとはどこだろう？ 聞いたことがない場所だ」。彼は完全には理解していませんでしたが、これをダッタ神からの命令として受け取り、タンサ溪谷に隠された聖地への道を見つけました。

バラクリシュナは到着すると、通りで出会った人々に「ダッタ神にお会いするにはどこへ行けばいいですか？」と尋ねました。「ダッタ神にお会いするにはどこへ行けばいいですか？」

彼が誰のことを言っているのか、誰にもわかりませんでした。彼は尋ね続けました。とうとう通り掛かりの人が言いました。「ここにはダッタ神はいない。いるのはバガヴァーン・ニッティヤーナンダだけだ！」

「それならば、私はニッティヤーナンダのところに行きます」と、バラクリシュナは言いました。

彼はそれからバガヴァーン・ニッティヤーナンダが住んでいるカイラス・ニヴァースに案内され、ダルシャンを待つ人のとても長い列の最後尾につきました。

まさにその瞬間、カイラス・ニヴァースでは、バデ・バーバが彼の周りにいた子どもたちの何人かにこう言いました。「外に行きなさい。私の信奉者が待っている。彼は汚れた服を着て、白い帽子をかぶっている。彼を連れて来なさい」

子どもたちは、バデ・バーバが説明したまさにその通りの男であるバラクリシュナを見つけ、バガヴァーン・ニッティヤーナンダが呼んでいると、彼に話しました。バラクリシュナはこれにとっても戸惑いましたが、子どもたちに従いました。

バデ・バーバはバラクリシュナが近づいてくるのを見て、立ち上がり、男の肩に腕を掛けて言いました。「ダッタ神に会いたいかい？私を見なさい」

バラクリシュナは、バガヴァーン・ニッティヤーナンダの目をのぞき込み、自分の切望がかなえられていたことを知りました。ダッタートレーヤー神は、ニッティヤーナンダの輝く姿で、目の前に立っていました。ついに彼は、最愛のダッタのダルシヤンを受け取りました。

それからバデ・バーバは、バラクリシュナに、ブラーミンの司祭たちのために祝宴を催すことによって、ダッタ神のダルシヤンを受け取るという目的を達成するよう命じました。それが終わると、バデ・バーバは、バラクリシュナにダッタートレーヤー神の数々の聖地へと巡礼を始めるよう指示しました。

バラクリシュナはもう一度バデ・バーバの命に従い、旅を始めました。彼はまず、インドでの最初のダッタ神の顕現であるシュリーパーダのダルシヤンを受けるために、クラヴァプールへ行きました。次に、ガーナガープーラにある、神の2番目の化身であるナラハリーの神殿へ行きました。そこから、インドのより現代の聖人たち——マーニク・プラブ、アッカルコートウ・スワーミ、そしてシルディのサイ・バーバ——のアーシュラムを訪れました。彼らはすべて、ダッタ神の化身として崇められています。訪れたそれぞれの場所で、バラクリシュナは同じ驚くべき体験をしました。

「私がどの神にプラナムをささげても、私のダルシャンは常にニッティヤーナンダのダルシャンです。彼は彼らすべてであるのです。彼はすべての中に居るのです」と、バラクリシュナは驚嘆しました。

バラクリシュナはガネーシュプリーに戻ると、この体験に大いに触発されて、巡礼の旅を詳しく述べるアーラティーを書きました。このアーラティーは、この惑星で異なる時代にさまざまな偉大な姿を取ってきた神の具現として、バデ・バーバを称賛しています。

バラクリシュナはその後、このアーラティーをバデ・バーバにささげ、バデ・バーバはその絶対なる愛と献身の行為をととても喜びました。この美しいアーラティーは、「ニッティヤーナンダ・アーラティー」として知られるようになりました。

